

沼田城跡発掘調査について

平成28年11月13日
沼田城跡発掘調査
現地説明会 解説資料
主催 沼田市教育委員会

沼田公園長期整備構想に伴い、沼田公園北側の天守推定地付近（図1・2）を平成28年7月19日～9月30日の期間、約300㎡を調査しました。



図1 調査地点位置図

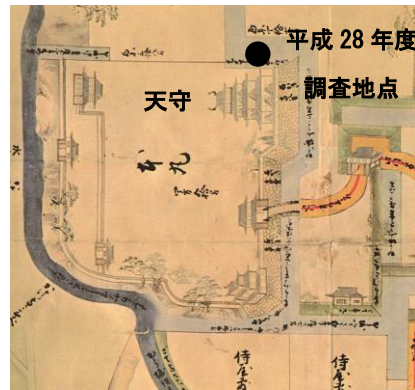


図2 正保城絵図（沼田城）

調査箇所は大きく分けて堀の上、堀の中となります（図3）。

堀の上では石組遺構や柱穴を検出しました。石組遺構は東吾妻町の岩櫃城のものに類似しており、今後の研究課題となるでしょう。遺物は五輪塔（墓石）の一部等が、出土しています。縄文土器の破片が1点出土しており、この土地が縄文時代から何らかの形で利用されていた可能性があります。

堀の中（図3）は階段状に掘られた状況や裏込石（※1）を確認できましたが、石垣そのものは発見できませんでした（※2）。

遺物は大量の瓦が出土し、金箔らしきものや釘などの金属製品も出土しています。

堀（図4）は深さ約10m程度まで調査しましたが、堀底に到達せずこれ以上の発掘は危険なため調査を止めています。関東

ローム層を掘り込んで造られています、とても深いため関東ローム層よりも下の沼田礫層をも掘り込んでいます。

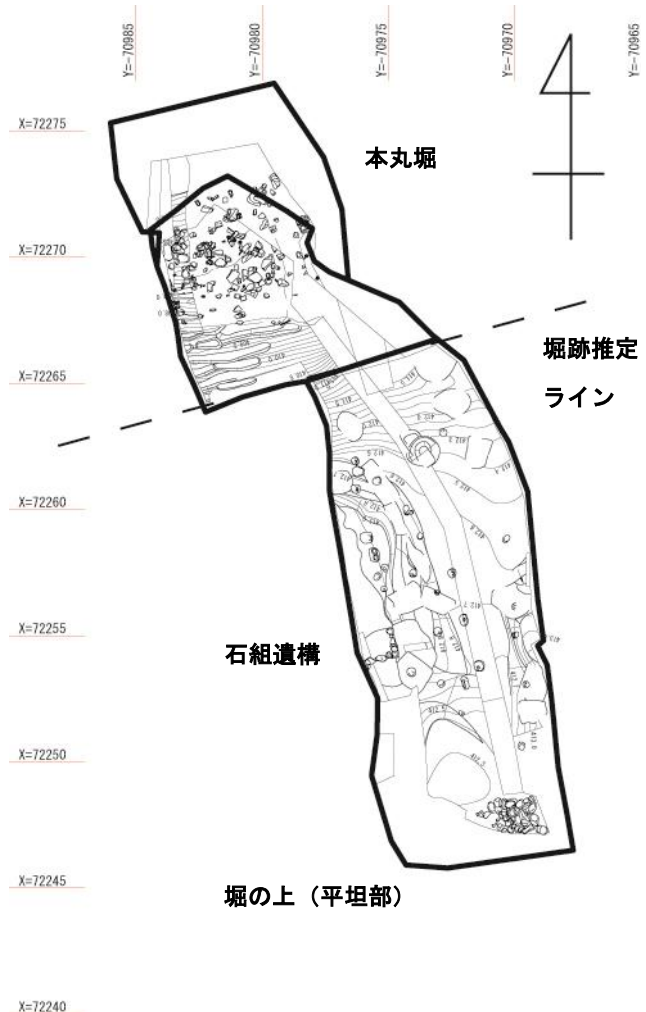


図3 調査区平面図（縮尺1/300）

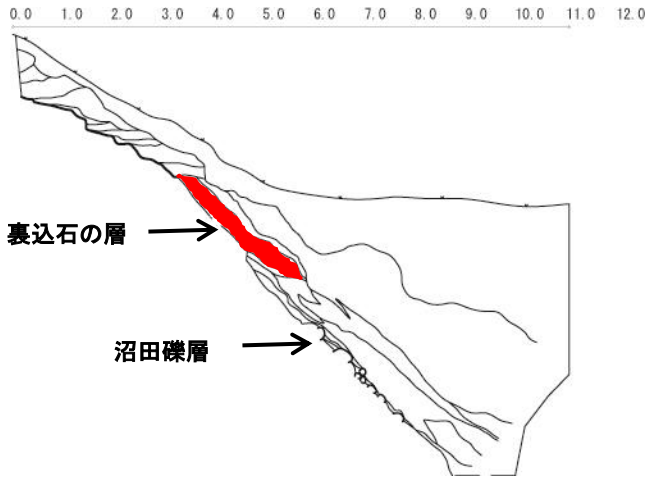


図4 本丸堀土層断面（縮尺1／150）

正保城絵図（※3）には天守部分の本丸堀の石垣の高さが8間（約16m）とあり、約10m発掘しても堀底が出なかったという発掘結果もこの記述を裏付けるものと思われます。



図5 石組遺構検出状況（東から）



図6 本丸堀跡全景（北東から）



図7 本丸堀軒丸瓦出土状況（北から）



図8 本丸堀金箔（？）出土状況（北から）

注

- ※1 石垣の裏込石のことですが、これは石垣の裏に設けることで水はけを良くし、石垣に水圧がかかり崩落するのを防ぐためのものです。
- ※2 ただし、鉢巻石垣や腰巻石垣という一定の範囲にのみ石垣が築かれたものが他の城に存在することから、今回の調査だけで石垣がその場所に存在したか、しないのかは断言できません。
- ※3 正保城絵図は徳川幕府（徳川家光が将軍の時）が全国の大名に作成を命じたものです。城の規模や構造を絵図と数値（例えば石垣の高さ）で示させました。